

1. この会社が目指す姿が理解できるか

ニチコン株式会社の目指す姿は十分に理解できた。「トップメッセージ」における、「経営理念」、「事業展開」では漠然としたスローガンのみならずそれに対するアプローチも具体的な製品名とともに記されているため、現実という足元を見ながら将来を見据えている、地に足を付けた経営がなされていることが読み取れる。また、「ニチコンの CSR 活動」においては、SDGs のロゴを利用した見出しにより、目指す将来像を視覚的にも読者に訴えかけてきているようで理解しやすかった。環境に配慮した製品の強調が随所に現れており、昨今の環境への影響を低減することに重きをおく市場の傾向のみならず、ニチコンの環境問題への意識の高さが反映されているのではないかとも思った。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

株式会社ニチコンの中心的技術である電源技術が競争優位性に大きく貢献していることが分かる。具体的には再生可能エネルギーの活用を拡大する製品や、気候変動に対応する製品群において先行しており、環境への事業の影響が非常に重要視される今、大きなアドバンテージを持っている。その電源技術が中心となるまでの過程も説明されており、より理解が深まった。また、成長を続けるアジア市場での生産、販売力を強化できていることも強み、優位性に含まれるように感じた。また、研究開発に余力をつぎ込んでいる点も、新技術において競合他社をリードしているといえるだろう。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

前述のとおり、成長著しいアジアにおける市場開拓が進んでいることは持続的な競争優位性となりうる。アジア市場の重要性は今後さらに拡大することが予想されているからである。また、現在の競争優位性にも含まれていると私は考えているが、電源技術を利用した製品を堅調に伸ばす一方で、新技術を開発、実用化を目指していることは将来、ニチコンの持続的な競争優位性の保持に貢献するだろう。将来、電源技術が普及してもはや企業を中心に据えるようなものではなくなったときに、代わってニチコンを支える重要な技術になりうる。これはニチコンの将来に安定性を与える。そのような中長期を見据えた事業計画は今後の競争優位性に良い影響を与えるだろう。その新技術を運用する一方で、さらに新たな技術を生み出せばまた先の時代における競争優位に繋がられる。そして、「事業のリスク」にあるように、完全な予測は不可能な事柄に対しても対策を公表している。不測の事態における対応の方針が事前に定められていることは読者にニチコンが打

たれ強い、というような好印象を与えている。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

「人材の育成・活用の項目」にて、人材についての言及があった。研修制度を始めとした社員の教育や、労働環境の整備に関心を持っていることが読み取れた。同時に人権や多様性といった点に配慮していることも伝わってくる。さらに、企業内の相互監視機能は十分に確保されており、社内の透明性も高い。そのため、経験を積み、自身の人的資本の価値向上に努めることにニチコン株式会社は適切であると言える。しかしながら、「人材の育成・活用の項目」にて読み取れるのは、以上のことのみであった。業界をリードする会社であることは就職において決め手となりうる一方で、人材育成面でとびぬけて整備された環境があるわけではなく、自身の人的資本の価値向上のために就職するのであれば、数多ある会社の中からわざわざ株式会社ニチコンを選んでまでの理由や魅力は感じられなかった。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体的には配色に富み、図表が効果的に利用された読みやすい統合報告書であったが、25ページの「事業等のリスク」に関しては読みづらさを感じた。10個のセクションに分けているが、1行空けるのみでは読みやすいとは言えなかった。図表のさらなる利用、黒以外の色の利用、それが不可能なら、もう数行セクションごとに感覚を空けるなど工夫の余地があるように感じた。図表の簡略化もこのことを改善する一つの手段になろう。精読しない、あるいは「ざっと目を通す」程度の読み方の時は文字のみで埋まっているページの理解度は下がってしまう。重要であるリスクに対する明確なビジョンが反映された文章であるだけになおさらに、読みづらさが目立つのはもったいないと感じた。ぜひより多くの読み手に重大な事項である、「事業等のリスク」を見てもらい、理解してもらえるようにすることを目指すべきだ。